

20当建水第61号

平成20年10月10日

国土交通省道路局長 様

当麻町長 菊川 健一



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月17日付け、国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり提出します。

（建設水道課 土木係）

揮発油税・軽油引取税は道路利用者から道路特定財源として徴収しているので、原則的には用途を道路事業に限定すべきである。

近年では国庫補助事業による改良舗装の事業実施は減少傾向にあるため、オーバーレイ等の維持修繕箇所が多くなり必要最小限の補修で対応している。このため、舗装の継目の段差が多くなり走行性や安全面でも支障がでているため、切削オーバーレイの補助事業制度の創設を要望する。

交通安全施設整備には、事業費の下限が1億円の統合補助制度があるが、改築系事業にも統合補助の制度創設を要望する。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道当麻町

○現状 町内では、道路路盤材等に使用する水田からの砂利採取が行なわれており、砂利プラントへの運搬・埋め戻し土の運搬により大型ダンプトラックの交通量が増加している路線がある。 舗装面のクラックや縦断方向のくぼみの部分補修・パッチングによる補修で対応しているが、舗装の劣化もあり全面的な舗装強化が必要になっている。 当町では、中古のロータリー除雪車（Ｓ５７年製）を購入し住宅密集地の道路の排雪作業及び郊外地の山間地の除雪をしている。 建設機械導入事業の補助で新車のロータリー除雪車に更新したい。	○課題 建設から相当年数が経過し二次改築が必要な道路もあるが、交付税の削減、道路特定財源の一般財源化などにより、国庫補助事業による道路改築は実施できない状況にある。 このため、補修箇所は多くなってきているが、町単独費によるパッチング・部分的なオーバーレイによる補修で対応しているが、道路の維持管理に使える予算は限定され、完全な補修が出来ない。 現在の車輛が町単独費で購入した機械のため、更新ではなく増強扱いとなり、補助事業での採択が難しい。一般財源に余裕がないため購入が先延ばしになっている。
--	--

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

北海道当麻町

平成19年度末の当町の町道は215路線、239.6Kmであるが、改良率は75%、舗装率は70%となっている。

第4次町総合開発計画（H24までの5年間）では道路交通の円滑化及び歩行者の交通安全を図るため、改良1路線272m、舗装1路線272m、歩道新設1路線1,120m、歩道拡幅2路線2,550m、車道拡幅舗装1路線1,467mの実施を計画している。

道路改良舗装に対する住民からの要望は多いが、改良舗装・維持補修の予算は限られているため、パッチング・部分的なオーバーレイで補修している。二次改築・全面的な切削オーバーレイは町財政の推移を見ながら行なっていく。

町内には96橋の橋梁があり、架設後25年を経過している橋が大部分であるが、定期点検・橋梁長寿命化修繕計画の策定を行ない、予防計画的な点検・維持補修を行ない適正な維持管理により長寿命化を図っていく。

また、町内には5路線の道道があるが、主要道道愛別当麻旭川線については高規格道路愛別ICから中核市の旭川市を結ぶ幹線道路のため近年交通量が増大している。このため、道に住宅密集地の市街地内を通過している区間のバイパスルートの新設を実施してもらい、市街地の交通緩和・交通安全を図っていく。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④
北海道当麻町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
総合的な交通安全 対策及び危機管理 の強化	道道に光ファイバケーブルを埋設する。 （国道には光ファイバケーブルが埋設されてい る）	デジタルネットワーク網の整備によ り、避難所になる公共施設等で交通・ 地震・洪水・大火災等の情報がより多 くの人に伝えられる。	将来的には、町道にも 埋設し、全町・全道・ 全国のデジタルネッ トワーク化を図る。